

霧島

Special Edition
特集◎学び・暮らしとが
地域の食文化にある

鹿報きりしま
OCTOBER.2008 VOL.64

10



9月17日 午後2時23分 溝辺町竹子(たかぜ)宮原

Kirishima City Public Relations, Japan
2008.10 VOL.64

霧島
鹿報きりしま



発行/〒899-4394 鹿児島県霧島市国分中央三丁目45-1 Ⅱ/0995-45-5111(代)
ホームページ/URL <http://www.city.kirishima.jp> ■メール/アドレス/E-mail/info@city-kirishima.jp
編集/広報広聴課 Ⅱ/0995-64-0955 Ⅲ/0995-64-0934 ■印刷/南国分新报社印刷



JAPAN AIR COMMUTER



DASH8-400型機 (Q400)

鹿児島生まれ、鹿児島育ち。
おかげさまでJAC(日本エアコミューター)は
創立25周年を迎えました。



SAAB 340B型機

日本エアコミューター株式会社 www.jac.co.jp

広告

Dream Skyward. **JAL**

学ぶべきことが 地域の食文化にある

私たち人間が生きていくためには「食」は欠かせないものです。その「食」を取り巻く環境が大きく変わり問題になっています。その解決策として注目されるのが「食育」です。未来を担う子どもたちのためにも、あらためて「食」について考えてみませんか。

昔から人は「食」を大切に守り、感謝してきました。「食」という字が人に良いと書くように、食べることは私たち人間に重要なことです。しかし、近年その「食」が乱れています。

日本人の主食である米を食べる量が40年前からすると約半分減り、その分、肉や油の量が増えました。このため日本人の食生活は高タンパク、高脂質の欧米型になり、生活習慣病の原因の一つとなっています。また日本の食料の多くが海外からの輸入に頼っており、そのため食べ物を作っている農家などが減り、食

料自給率は4割となっています。

そのほかにも、食品の産地偽造や異物混入など消費者の食への不安は高まるばかりで、何を信じて食品を選べば良いのか分かりません。「食」を大切に守り、感謝していたあのころの思いはどこにいったのでしょうか。

そんな大切な「食」を守るために注目されているのが「食育」です。その中でも、地域にある食文化を生かした食育が注目を浴びています。今回は地域に受け継がれる食文化の魅力に迫ってみました。



学ぶ、創る、耕す、 つながる。 霧島の食と知恵を 受け継ぐ活動。

「地元の食の素晴らしさを伝えたい」。そんな思いから市内各地でいろいろな団体が食に関する活動をしています。その中の一つ、NPO法人霧島食育研究会は、地元の作物やそこに暮らす人の知恵に注目し、地域から学ぶ食育活動を展開しています。

学ぶ、創る、耕す、つながる

霧島食育研究会では、食べることでだけではなく「学ぶ・創る・耕す・つながる」を大切に、さまざまな角度から食育活動に取り組んでいます。

「霧島・畑んがっこ」は、昔から霧島地区で作られてきた大豆や雑穀などの作物を自分たちで栽培・収穫し、そ

の作物を使って調理・加工する体験活動です。「霧島たべもの伝承塾」は、霧島で昔から食べられてきた料理を地元のかたに教わり、昔の知恵と味を受け継ぐ料理教室です。そして、同研究会の1年の総まとめとなるイベントが「霧島・食の文化祭」です。地域に伝わる家庭料理や各家庭の思い出のお弁当などの展示、終戦後の食卓の再現などを学べるイベントです。

学べるべき文化

霧島食育研究会代表の千葉しのぶさんは、地元には学べるべき食育がたくさんあると言います。



霧島食育研究会が開いている「畑んがっこ」で、毎年大豆を栽培しています。自分たちで大豆から植え大豆を収穫。そして取れた大豆で豆腐を作りました。大豆は地元の農家のかたに、豆腐は地元の詳しいかたに習い、栽培から加工まで、すべて地元の自然と知恵が作り出した純霧島産豆腐ができました。

「食育研究会を立ち上げるとき、まな板の上だけの食育ではなく、まな板の上を飛び出した食育を学ぶために、自分たちでも農作業を体験しました。そのとき、作物を育てることの大変さや、自然の大切さを改めて知りました。また、昔の人には食材を生かす加工する技術があります。今は買うことが当たり前の物も自分たちで作っていました。地域には、そういった知恵をもったかたがいます。各地域で受け継がれてきた作物や知恵を学び、食といるんな角度から向き合う、地域にはその土地ならではの食育があります」

「子どもが『お腹がすいた。今日のご飯は何?』と台所の鍋をのぞくような姿が家庭にあり、大人になった後でも、子どものころ食べたわが家の味と共に懐かしい光景を思い出そう。食でつながる心を感じられることが究極の食育だと思っています」

各地で食育活動を展開する団体が増えるなか、千葉さんは「食育は目的ではなく、地域の良さを再認識できる手段」と言います。これからも、一人一人の心に残る食育活動を目指して、霧島の食と知恵を多くの人に伝える活動は続きます。



霧島食育研究会のメンバー
(メンバーは全員で15人)

食を大切にする文化を育てる
NPO法人霧島食育研究会
<http://www.geocities.jp/kirisyokuiku/>

平成16年1月18日霧島食育研究会発足/霧島の味・家庭の味の継承。作る喜び・食べる喜び・感謝の気持ちをはぐくむ。個人や地域での健康づくり・食の自立を目指している。受賞歴/平成18年7月「読売教育賞」社会教育活動部門「最優秀賞受賞。平成18年12月「あしたのまち・くらしづくり活動賞」食育活動部門」内閣総理大臣賞受賞。平成19年「地域に根ざした食育コンクール」食育ネットワーク部門全国1位。



①自分たちで栽培した食材をみんなで試食 ②保育園で子どもたちに食育教室 ③市内の子どもから大人までが参加して田植え体験 ④、⑤霧島の家庭料理を再現(霧島・食の文化祭) ⑥竹細工ワークショップ(霧島・食の文化祭) ⑦昭和20年の食卓を再現(霧島・食の文化祭) ⑧「霧島・畑んがっこ」で畑の草取りに励むみなさん ⑨各家庭の料理が大集合(霧島・食の文化祭) ⑩時空を超えたお弁当の展示(霧島・食の文化祭)



◎第5回「霧島・食の文化祭」

- ・日時=11月16日(日)午前10時から
- ・場所=霧島保健福祉センター(神ノ湯となり)
- ・詳しくは霧島食育研究会へ ☎(57)1360



03 クローズアップ
Closeup

霧島・食の文化祭で展示された絵巻物。大勢のかたがその内容に見入っていました。



02 クローズアップ
Closeup

料理教室でそば作りを教える馬場さん

地元の味を受け継ぐ ばっばんの田舎料理

市の公民館教室「霧島ばっばんのふるさと加工料理教室」で郷土料理を教える馬場絹枝さん。その料理教室が人気を集めています。

なぜ、こんなにまで人気なのか馬場さんに尋ねると「ほんの田舎料理なんだけどね」と本人も不思議そう。しかし、その「ほんの田舎料理」が人気の秘訣でした。馬場さんの料理教室を受講している多くのかたが「馬場さんの料理が、なんだか懐かしくておふくろの味を思い出す」と話していました。

馬場さんが教える料理にはレシピがありません。料理に入れる具は、そのとき採れた野菜などで、味付けもそのとき次第。しかし、それがいいと言います。「昔は、今のようにながら年中、食材がありませんでした。だから自分の畑でそのとき採れる物を使い、味付けも具に合わせて自分で考えながら決めていました。考えながら作る料理は、発見があって楽しいです。今は便利だけど、考えながら作る楽しさを忘れていくような気がします。多くの人が作



手作りそばに地元の食材をトッピング

ることの楽しさを伝えたいです」

昔は、今のようにながら年中、食材が手に入らない分、そのとき採れる旬の食材を上手に使い、作る人の知恵と経験で食を考えていました。毎回、同じ味にはならなくても、そこには作る人の思いが込められていました。



馬場絹枝さん

昭和6年生まれ76歳。霧島永水地区在住。地元の物産館「ながみず百笑館」には馬場さん手作りみそや漬物などが並ぶ。公民館教室以外に、霧島ソバズ同好会の会長を務め、そば作りを子どもたちに教えている。

絵巻物で描いたのは 母との思い出でした

横川町山ヶ野地区で生まれ育った金田美津子さんの絵巻物が多くのかたに感動を与えています。絵巻物には、昔の山ヶ野地区の行事食などが描かれており、当時の食文化を知る貴重な資料となっています。金田さんは、そんな絵巻物を「母との思い出」と言います。「子どものころ貧乏でした。母は毎日一生懸命働き、自分なりに工夫して食材を確保し、私たちにごはんを作ってくれました。貧乏だったからこそ母の思いが心に深く残った、うれしい食の思い出を描きました」

その絵巻物に料理と一緒に描かれて



絵巻物に描かれたお母さんの言葉



金田美津子さん

昭和20年生まれ63歳。横川町山ヶ野地区出身。横川地区の食生活推進員。平成16年公民館教室で絵巻物習う。その経験を生かして絵巻物で地元の食文化を紹介。さまざまな食のイベントなどで展示される。

いるのが金田さんのお母さんの言葉。お盆には仏様に供え物をしながら「たいたこともできもはんじゃったどん、来年もおじやったもんせなあ。気をつけて戻りやったもんせ」などお母さんが言っていた言葉がいろいろ描かれています。このことについて金田さんは「昔から伝わる文化を私は母が作る行事食と母の言葉で覚えました。母がつぶやいたあのときの言葉。当時は分からなくても今なら分かります。この絵巻物は、母が残したわが家の文化をしっかり受け継いだ証でもありません」と懐かしそうに話してくれました。



食育は食べることの大切さを みんなで考えること。

毎年、大勢の人が訪れる「霧島・食の文化祭」や多くの申し込みがある「ばっぴんの料理教室」など、霧島市各地でも食文化を伝える活動が進められています。しかしその一方で、食べ物は買うことが当たり前前の「買う暮らし」が定着しています。このまま、食べ物を買う物になっていいのでしょうか。

結城先生に聞く

日本各地を回り地域の食文化について研究をしている、民族研究家で宮城教育大学非常勤講師の結城登美雄先生にこれからの食について聞きました。

「最近、歳をとったから野菜を作ることができなくなったという意見をよく聞きますが、私はとても不安に感じます。農業など食べ物を作っている人は約333万人と日本の人口の2・6

割しかいません。しかもその内、70割が60歳以上です。今や日本の食べ物は高齢者が支えています。このままだと、あと10年すると日本の食べ物は人口の1割の人が支えることになってしまいます。その高齢者が食べ物を作ることには限界を感じてきています。日本の食料自給率は40割と少なく、10年後も食べ物があると考えられるのではなく、食べ物が無くなることを前提に食に向き合う必要があると思います」

とですが、結城先生の話を聞くと不安に感じます。それなら私たちはどうしたらいいのか。このことについても、結城先生は興味深い指摘をしています。「以前、ご長寿が多い沖縄で104歳のおばあちゃんに言われました。『沖縄では食べ物に命の薬。その命の薬を本土の人は他人に委ねて平然としている。店で買物をするとき原材料や生産地など疑わしい目で見ているが、そんなに疑わしいなら自分で作ればいい』。沖縄では、あたいたい。（家の近く

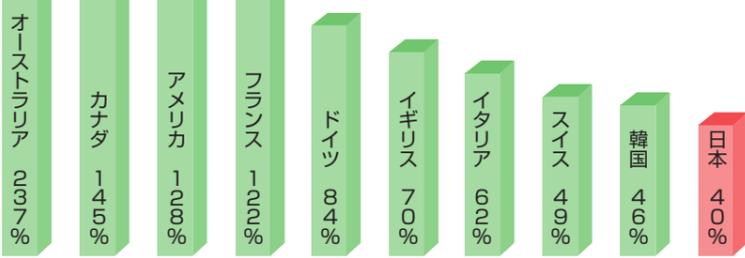
の小さな畑）を大切にしています。沖縄の人は食べ物に大切にし、しっかりと食べ物に向き合っています。誰もが畑を持つことは難しくても、私たちがもめることはあります。それは家族や友人、隣人、知人などの食をどうするかです。日本の食をどうするかは難しくても、小さな範囲なら何とかあります。その小さな範囲が「地域」です。地域で支え合う食こそが、今の日本の食を守る大きな鍵になると思います」

日本の食を守る鍵となる地域。ではその地域でどのように取り組んでいけばよいのでしょうか。そのヒントは地域に伝わる食文化にあります。

「昔の人は、自然と食べ物を大切にしていました。地域で行われる行事や祭りの中に、自然や食べ物に感謝するものが多いのが証拠です。そんな行事や祭りのたびに食べ物を持ち寄って、みんなでご飯を食べました。私はその光景を「地域の食卓」と呼んでいます。食べ物の栄養やバランスも大切ですが、食べ物にはそれ以外にも大切なものが

あります。それが地域にはたくさんあり、それぞれの地域の食文化として培われてきました。楽しく・面白くときには怒ったりしながら食文化と向き合えるような場を作り、地域に根ざした食育のすすめが重要です」

長年受け継がれてきた食文化は、その土地に暮らす人の知恵と思いが込められています。しかし今は、その食文化が薄れ、10年後の食が不安な状況です。私たちにできることは何なのか。結城先生は「食育は食べることの大切さをみんなで考えること」と言います。皆さんの周りには食文化をもう一度見つめ直してみてください。そして、食べることの大切さを考えてみてください。そこから、私たちにできる何かが見えてくるかもしれません。



主要先進国の食料自給率

日本の食料自給率は40%（カロリーベース・平成20年。他の国は平成15年度）です。では、他の国ではどうなのでしょう？ オーストラリアが237%、カナダが145%、アメリカが128%です。日本とほぼ同じ面積のドイツは84%。日本の食料自給率は先進国の中で最低水準なのです。



ゆうき・とみお

昭和20年満州生まれ。山形大学卒業。95年、新聞での紀行文の連載をきっかけに、地元、東北地方の農山漁村巡りを開始、600の集落を訪ね歩いた。地域の文化や生活を紹介しながら、地域づくりにかかわる。宮城教育大学非常勤講師（地域文化論）。著書に『山に暮らす、海に生きる』（無明舎出版）



心で感じる美味しい本。
今月の新刊。

「冷たい水と、砂の記憶」谷村志穂、「霸王の番人上・下」真保裕一、「右岸」辻仁成、「左岸」江國香織、「瑠璃でもなく、瑠璃でもなく」唯川恵、「美人いくさ」諸田玲子、「少しだけ欠けた月 季節風秋」重松清、「伴天連の呪い」逢坂剛、「火村英生に捧げる犯罪」有栖川有栖、「消失 第四巻金融腐蝕列島(完結編)」高杉良、「深川にゃんにゃん横丁」宇江佐真理、「あきらめるのはまだ早い」こごまできた最新医学2「渡辺淳一」、「犯罪小説家」栗井脩介、「息の発見」五木寛之、「猫の形をした幸福」小手鞠るい、「だじゃれたつぶり宇宙大作戦」内田麟太郎、

「ゆうれいばあちゃんのがい」井上よう子、「パパがやいたアップルパイ」ジョナサン・ピン、「ハロウィーンのまじょティリー」ドン・フリーマン、「死の影」ダレン・シヤン、「キングヨのてんこうせい」阿部夏丸、「さんぞくまつぼっくりのもんえもんのなみだ」飯野和好、「日本一おいしいお米の食べ方」大桃美代子、「やさしい小物と和紙の人形」塩谷優希、「お料理らくらく基本レッスン」堀江ひろ子、「生きているうちに決めておく寺・墓・葬式」週刊ダイヤモンド、「食材保存 使いきり便利帳」フルタニマサエ

(霧島市立図書館)

気をつけ、礼。
重松 清著
「センス、オトナには、なして先生がおらんのだしょう」。怖かった、うるさかった、オトナのくせに情けなくて、でも、あの後ろ姿が忘れられない。時が流れること、生きていくことの切なさをやさしく包み込む物語。

かごとかご雑貨 2
日本ヴォーグ社
環境にやさしいエコロジー素材・エコクラフトで作るかご雑貨を紹介。小物入れから脱衣かご、ラック、手提げかごなど、さまざまな作品の作り方を、写真で詳しくプロセス解説します。

おにいちゃん
後藤竜二 著
ゆうかは妹のくせに僕を呼び捨てにする。ある日、ゲームのスイッチを突然切ったゆうかを叩いてしまい……。生意気で、泣き虫で、うるさくて、だけど、たまーにちょっとかわいい妹に振り回されるお兄ちゃんのお話。

ねこのゴンサ
石倉欣二 作・絵
大好きなおにいちゃんが行ってしまった。団地の向こうにできた「ことぶきえん」に入るんだ。もう一度おにいちゃんに会いたい。ねこのゴンサは、おにいちゃんがいる施設を目指して、初めての道を歩き出しましたが…。

2008「読書週間」

10月27日(月)から11月9日(日)まで

標語 おもわぬ出会いがありました。

終戦の2年後の昭和22年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき。「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が行われました。

それから60年が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民の国」となりました。

今年の「読書週間」が、皆さんの一人ひとりの読書への関心と、本を読む習慣が多くの皆さんに広がることを願っています。



横川中学校
統合40周年

統合40周年でさらなる飛躍を

リーダーとしての自覚を持ち、主体的に関わる生徒



体育大会を成功させた実行委員の皆さん

横川中学校は、向陽中学校と横川中学校が昭和44年に統合して今年で40年目になります。全校生徒は男子65人、女子77人の142人、緑に囲まれた静かな学校です。

11月9日には、地域のかたや保護者、卒業生からの寄付などで製作した校旗のお披露目を兼ねて統合40周年祝賀会を開催する予定です。祝賀会では第1回目の卒業生で映画監督の月野木隆さんの講演があります。このほか今年度の大きなニュースは、野球部が学校統合以来初めて県中学校総合体育大会に出場したこと、2回戦で敗れたものの、1回戦は相手打線を1安打に抑え完封勝利を飾っています。

3年生としての自覚

9月14日、第40回体育大会が開催されました。体育大会の実行委員長は、競技部、運営部、応援部と生徒会役員で構成されます。入場行進の練習から競技の進行などすべてを生徒だけで行います。文化祭も同様で、この二つの実行委員会は、3年生が中心と

なって組織されています。そのため生徒は3年生になると「自分たちがやらなければ」というリーダーとしての自覚が生まれるようです。

体育大会当日は、今にも雨が降り出しそうな天気。予定のプログラムより少なくなりましたが、運動場には最後までやり遂げた充実感で目に涙を浮かべている応援団員の姿があったそうです。



◎第1回卒業生
井上裕美子さん
(安良保育園園長)



私は統合した横川中学校の第1回目の卒業生で、2年生までは向陽中学校でした。横川中学校に行くのは最初戸惑いましたが、卒業するときはみんな仲良くなることができました。保育園の園長をしていますが卒園した子どもたちが職場体験学習に来たり、普段から声をかけてくれたりするので、子どもたちの成長を身近で見ることが出来ます。私の子ども二人も横川中学校出身で学校には愛着があり、これからも横川に住む者として中学校を応援していきたいと思えます。



地域住民の憩いの場



大浴場



至さつま町 至湧水町
至加治木町
至上床公園
至高屋上山陵
至霧島港
至霧島港
至霧島港

溝辺ふれあい温泉センターは、鹿児島空港から車で北へ10分、国道504号と県道栗野加治木線の交わる竹子入口交差点近くにあり、平成12年4月オープン以来、地域住民の憩いの場になっている温泉施設です。大浴場には、ジェット湯・気泡湯・低周波湯・サウナなど充実した設備が整っており、大人2000円、子ども1000円という低料金で楽しめます。別棟にある家族湯は1時間700円で、4・5畳の部屋、ミニキッチン、トイレを備えた2室と身体障がい者対応の家族湯が1室あります。また、玄関横では、老人クラブのかたが栽培した採れたての新鮮野菜を販売しています。



身体障がい者用家族湯
手すりの付いた広々とした浴室とその隣にはたみ部屋と介護しやすいように介護用ベッドが備え付けられた12畳の部屋があります。



特産品販売所
地元の老人クラブの会員が作った新鮮野菜を販売。午前8時のオープンと同時に買い物客が訪れます。



溝辺の温泉

溝辺ふれあい温泉センターは、市営の温泉で溝辺町内では唯一の公衆浴場。平日は2000人の利用があり、市外からのお客さんもいます。また、溝辺地区のふれあいバスはすべての路線が、ふれあい温泉センターを経由しており重宝されています。



特攻隊員資料展示

上床公園の溝辺コミュニティセンター内にある特攻隊員資料展示には、第2次世界大戦時、今の空港付近にあった基地から飛び立った特攻隊員の遺影、遺書などが展示されています。上床公園からは桜島、鹿児島空港を見下ろすことができ、霧島の山々を見ることができ、見晴らしのいいところです。鹿児島空港の時間待ちにもおすすめ。

◎問い合わせ先=溝辺コミュニティセンター ☎(58)2451



昔から「柿が赤くなると医者青くなる」といわれ、柿は栄養価の高い食材とされてきました。霧島永水地区の高橋正幸さんは、妻のサヤさんと一緒に「高橋観光柿園」を営んでいます。110坪の畑には約750本の柿の木が植えられ、10月中旬から11月にかけて収穫時期を迎えます。

農業一筋で生きてきた高橋さんは、今年78歳。体に負担になりすぎないようにと柿園を始めたのは60歳のとき。とはいっても、果実の栄養が分散しないために実を間引く作業や木のせん定、防虫対策など多くの手間がかかります。家族からは「もう無理しないで」と言われるそうですが、「働くのが趣味のようなものだし、毎年楽しみにしている人があるからまだやめられない」と高橋さんは話していました。

収穫の時期になると、子どもからお年寄りまでが柿園を訪れます。柿狩りを楽しむ様子を見るときは、高橋さんにとって苦労を忘れる瞬間なのだそうです。

食欲の秋。行楽の秋。霧島の自然の中で柿狩りを楽しんでみませんか。



深まっていく 秋を感じさせてくれる旬の果実



柿ようかん

【材料】柿2個、三温糖大さじ3、寒天パウダー6g、粉茶小さじ1

【作り方】

- ①柿の皮をむき細かく切り、水150ccと粉茶と合わせてミキサーにかけます。
- ②①を中火であたためて三温糖を入れる。さらに寒天パウダーを入れ2~3分かきまぜる。
- ③四角い容器にサランラップを敷き、②を流し込み冷蔵庫で2~3時間固める。



柿 (persimmon)

ビタミンC、カロチン、ミネラルなどを多く含む。渋みの成分タンニンアルコール分を外に排出するので、二日酔いにもよいといわれています。



◎霧島永水在住
高橋正幸さん・サヤさんご夫妻

私の人生は音楽とともに……。。



Profile 池田政晴さん(83)
牧園町持松在住

大正14年2月生まれ。小学校3年まで鹿児島市で過ごし、その後東京へ。北海道帝国大学予科(旧制高校)から、同大理学部へと進学。昭和20年、病氣療養をかねて牧園へ移住。池田農場を経営するかたわら、牧園町教育委員長などを務めた。混声合唱団グリーンエコーでは発足当時から団長を、霧島国際音楽祭牧園友の会でも発足当時から会長を務める。農場はすでに子どもたちに譲り、最近では来年3月15日に開催するグリーンエコーの第20回定期演奏会に向け猛練習中。

人の風景

THE SCENE
霧島に生きる

「合唱は『愛』。団員や指揮者がお互いを尊重し合う中で、歌そのものへ愛を込めればいい音楽になる」と話すのは混声合唱団グリーンエコーの団長を務める池田政晴さん。

昭和63年に発足して以来、そういった思いで活動を続け、技術向上に努めてきました。それが功を奏し、8月3日、宝山ホールで開催された「第24回鹿児島県合唱フェスティバル」において、金賞を受賞しただけでなく、2度目となる鹿児島県知事賞を受賞。9月6日から長崎県で開催された九州合唱コンクールには鹿児島県代表として出場し、念願の金賞を受賞しました。

池田さんは今年83歳。20歳のとき、すでに東京から鹿児島(牧園)に生活の拠点を移し、農場を営んでいた両親のもとへ戻ってから、池田さん自身も酪農や製茶販売をしてきました。合唱団活動を始めたのは、池田さんが35歳のころ。当時、始良郡内にいくつかできていた合唱団の一つ、霧島混声合唱団に誘われたのがきっかけ。幼いころから家の中でクラシックが流れていたという池田さんにとって、音楽と関わることは自然な流れでした。

昭和55年、池田さんの姉夫婦が経



市歌をお披露目する役も担った



鏡を見ながら発声練習をする団員の皆さん

営していたユースホステルで始まった霧島国際音楽祭。これにもさまざまな形で関わり、昭和60年、音楽祭をさらに発展させようと発足したボランティア組織「霧島国際音楽祭牧園友の会」の初代会長として現在も活躍しています。

グリーンエコーの名前の由来は、合唱団の合併にありました。すでに国分と霧島の混声合唱団が合併して活動していた「国分混声スウィングエコー」と、隼人で活動していた「グリーンハーモニー」が合併するにあたり、それぞれから名前を取って、「混声合唱団グリーンエコー」

としてスタートしたのが20年前でした。今では団員も35人となり、昨年は地域に根ざした合唱団として、県の芸術文化奨励賞も受賞しています。

合唱の楽しいところは「一人の力は及ばなくても、みんなで力が合わせるととてもいい音楽になるところです」と話す池田さん。「私にとって音楽(合唱)は『生きがい』。だからこそ元気でいられるのだと思います。これからも団員のみならず仲間も多く、楽しく歌っていきたい」とおだやかな口調で話していました。池田さんの人生はこれからも、愛してやまない音楽とともに続きます。

◎団員募集

混声合唱団グリーンエコーでは一緒に歌う仲間を募集しています。お気軽にお問い合わせください。

◎練習日時=毎週火曜日・金曜日 午後7時30分~10時

◎連絡先=【池田】☎(78) 4091

私のマイバッグ



地球温暖化防止対策を進める上では、二酸化炭素の排出量を抑えることが必要です。家庭でできる対策として今月は、レジ袋の使用を減らすためのマイバッグ運動について取り上げてみましょう。

国分野口西の小田部弘美さんは、二人の小学生のお母さん。小学校のPTAでは家庭教育学級の一員として環境問題をとり上げたり、今年の夏休みの環境学習会では壊れた傘を使ってマイバッグを作る講師をしたりしました。環境について関心のある小田部さんが、日ごろどのようなエコ生活をしているか聞いてみました。「みんながやっていることだと思いますが、冷暖房の温度調整。掃除機を使わずにできるだけモップを使ったり、使わない電化製品のコンセントを抜いたりしています」。マイバッグは3年前から使い始めたそうです。

持参率13・8割

マイバッグの持参率について霧島市全体の統計はありませんが、昨年10月に環境問題を学習し、マイバッグキャンペーン活動を実施してきた隼人エコサークルが行った「買い物袋持参率調査」の結果があります。調査は、隼人地区の大型店6店舗を対象に調べています。それによると10月

22日、午後4時30分からの1時間に967人の内、マイバッグ持参者は133人で、持参率は13・8割という結果が出ました。持参率の一番高いお店は18割、一番低いお店が5・5割でした。

持参率90・3割

一方全国に目を向けてみると山形県山形市は今年7月1日から一斉に大型スーパー7社31店舗でレジ袋の有料化を実施。市民団体も店頭でキャンペーンを行うなど官民一体で取り組んだ結果、1か月で90・3割の持参率を達成しました。ただ全国的にはレジ袋の有料化や廃止を関係機関とともに取り組んでいる自治体は15自治体とまだわずかです（平成20年3月26日現在、資料経済産業省）。レジ袋の有料化にはお店とともに、行政や市民も一体となった取り組みが期待されます。

10月は九州統一マイバッグキャンペーン月間です。「マイバッグを持つことができることが喜び」と感じることができたら素敵だと思いませんか。

傘で作ってみようエコバッグ

1 傘の骨に付けてある糸を丁寧にはずす。



2 一枚ずつばらす。



3 三角を互い違いにぬい合わせる。残った部分で取っ手を作る。



4 底をしっかりとぬう。



山口博美さん 満辺地区

夫からおみやげにもらったマイバッグを去年から使い始め、邪魔だったレジ袋がたまらなくなりました。ときどき忘れることもありましたが、今では忘れたときに「しまった」と思うようになります。



山口景子さん 霧島地区

食材を買ったために20年前から使っている買い物かごです。持ち帰った袋は邪魔になるし、ここのほうがたくさん入るので便利です。勝手にできていくかごで修理をしながら大事に使っています。



西村久光さん 隼人地区

隼人町環境保全協会の役員のとときに店頭でマイバッグを配った3年前から使うようになりました。使ってみようという意識は高まっているようですが、まだまだ利用している人は少ないようです。



堂領香代子さん 横川地区

10年前、品のいいおばあちゃんがマイバッグを当たり前のように使っている姿を見てかっこいいと思ったのが最初。今はバッグもベクトルなどで作ったりリサイクル商品ものものを使っています。



九十九梢さん 隼人地区

去年友だちから誕生日プレゼントでもらいました。とてもおしゃやれでかわいかったので使うようになりまし。今では当たり前のようにお店の人に「袋はいりません」と言えるようになりました。



長谷川政子さん 牧園地区

いつも7種類のバッグを使いわけています。両手にレジ袋を持つのがいやで8年くらい前から始めました。バッグを忘れたときには、お店から段ボール箱をもらって買い物したものを入れています。



今村祐子さん 国分地区

去年、母から「使ってみたら」とマイバッグをもらいました。それまではまわりにあまり持っている人がいなかったので使っていませんでしたが、レジ袋がたまらない家の中がすっきりしました。



大山明日香さん 福山地区

マイバッグを持つようになったのは去年から。それまでもレジ袋に余裕があれば、同じ袋に入れてほかの袋はもらいませんでした。私のマイバッグは、お店でもらった袋を再利用しています。



宮原正純さん Aコープ隼人店

マイバッグ運動は、地球環境を守る一貫として20年以上前から取り組み、持参された方にはスタンプサービスの特典があります。利用者拡大のためには行政やお店、住民が一体となった取り組みが必要だと思います。



シリーズ③ 「霧島市男女共同参画計画」基本目標②「制度や慣行について配慮する社会」

男女共同参画に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための霧島市男女共同参画計画。シリーズ③では、基本目標②について紹介します。●男女共同参画に対する理解の促進

日本国憲法に個人の尊重と法の下の平等がうたわれ、男女平等の実現に向けた法制度の整備などの取り組みが行われていますが、現実の社会においては、事実上、男女の格差が存在しています。実質的な男女平等を実現するために、男女共同参画の理念や社会的性別(ジェンダー)の視点の定義について、市民の正しい理解の促進と誤解の解消に努め、公平性にかけるような運用や解釈が行われな

て生まれきたものではあります。男女共同参画の形成という新しい観点から見た場合、結果的に男女に中立に機能しない場合があります。このため、制度や慣行が男女共同参画の形成に与える影響や、男女共同参画に関する現状などについて、調査研究を行います。●男女共同参画の視点に立った教育・学習の推進

性別による固定的な役割分担意識にとらわれず、人権尊重を基盤とした男女平等感の形成を促進するためには、学校・家庭・地域・職場などさまざまな分野において教育や学習の果たす役割は極めて重要です。男女平等意識の醸成を図るため、幼児期からの家庭教育や、学校教育などにおいて、保護者や教育関係者などが、男女平等の視点、社会的性別の視点に立った子育てや教育が行われるように努めます。また、これまで一方の性の参画が少なかった分野に両性がともに参画し、多様な発想、

活動の活性化が図られることによって、それぞれの分野の新たな発展が期待できます。そこで、男女がともに個性と能力を十分に発揮し、社会のあらゆる分野に参画していくために、生涯学習の機会の充実を図るとともに、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけるよう、男女共同参画の視点を踏まえた進路指導・就業指導を行います。●問い合わせ先II企画政策課 男女共同参画推進グループ ☎(64)0914

熱損失防止(省エネ)改修に伴う固定資産税の減額措置

今年1月1日以前に建てていた住宅(賃貸住宅は除く)で、4月1日から平成22年3月31日までの間に一定の熱損失防止(省エネ)改修工事をした場合、工事完了後の翌年度分の固定資産税額が3分の2になります。●対象となる工事

※①の改修工事と併せて行う②④の改修工事 ●適用要件 ●改修工事費用が30万円以上 ●住宅の居住面積の割合が2分の1以上 ●現行の省エネ基準に新たに適合することになるもの ※1戸あたり120平方メートルが減額の対象。新築軽減、耐震改修軽減とは併用できませんが、バリアフリー改修軽減との併用は可能。●申請方法 工事完了後3か月以内に税

務課、各総合支所地域振興課にある所定の用紙に次の書類を添えて申告してください。●添付書類 ①熱損失防止改修工事証明書 ②領収書の写し ③納税義務者の住民票の写し(市外居住者) ④3か月以内に申告できなかった場合はその理由書 ●問い合わせ先II税務課固定資産税グループ ☎(64)0902、各総合支所地域振興課

「国税電子申告・納税システム(e-Tax)」を利用することにより、国税に関する各種手続き(①所得税・法人税・消費税などの申告、②すべての国税の納税、③法定調書の提出などの申請・届出など)が自宅や事務所にいながらにしてインターネットなどで行えます。●所得税などの納税証明書を請求されるかたへ

納税証明書の交付申請を「国税電子申告・納税システム(e-Tax)」で行い、書面で発行を受けるサービスが開始されました。自宅のパソコンなどから交付申請をし、受け取り方法を郵送または来署予定日を指定した上で税務署窓口での受け取りが選択できることから、税務署の窓口では待ち時間が短縮されます。e-Taxを利用しているかたはご利用ください。●詳細はホームページ http://www.e-tax.nta.go.jp をご覧ください。

きりしまっ子方言(かごま弁)標語コンテスト

子どもたちの間であまり使われなくなった「かごま弁」を知ること・使うことで、古くからの暮らしを伝承し、郷土を再発見しようと、昨年度から子どもたちによるかごま弁を用いた標語コンテストを実施しています。市内の小学4年生から中学3年生を対象に、今年度は573点の応募があり、審査の結果、小学生の部59点、中学

生の部23点が入選しました。表彰式は、9月13日に開催されたかごま弁論大会の席上で行われ、特選には、「篤姫」や「チェストいけ」など最近の流行をうまくとり入れた作品が選ばれました。●特選(わっぜよかつた賞) 「あつひめ」に負けんど きりつまん よかおごじょ 【国分小4年 西千枝里】 「チェストいけ!」おいたつてつくい きりつまん明日 【霧島中3年 冷水麻妃】 ●準特選(じゃつど賞)

親も子も ことんはつめは えさつから 【牧園小5年 森園あすか】 元気がでつ やっぱいかあちゃんの 玉子焼つ 【日当山小6年 富満勇太】 うれしかね いっしょいきばい友がおっ 【舞鶴中3年 赤塚史穂】 きりつまん やさしかこころいそだてられつ 【霧島中3年 松下慎也】 ●市長賞(いっしょにきばいもんぞ賞) きりつまを もりあぐつどお

わになつせえ 【宮内小4年 中村 彩】 来やんせ見やんせ食べやんせ やっぱいよかとききりつまは 【霧島中3年 福田衣利子】 ●教育長賞(おもてかつた賞) きりつま市 ひとつこつでゆがならん よかまつじや 【日当山小6年 八木ゆりあ】 肥えちよつど 芋に黒豚おいげえん 母ちゃんも 【日当山中3年 小澤典丈】 ●問い合わせ先II生涯学習課 ☎(42)1118



標語コンテストの表彰式

かごしまイエローカードキャンペーン

平成18年度に策定した県民の健康づくり計画である「健康かごしま21」の中間評価の結果、食生活の乱れや運動量の低下など、県民の生活習慣に課題があり、それらを反映して肥満や糖尿病など生活習慣病患者が増加傾向にあることが明らかになりました。このため、健康関連団体と協働で、県民の健康への関心を高め、生活習慣の見直しを

呼びかける普及啓発活動を、イエローカードキャンペーンとしてスタートし、10月は強化月間となっています。この機会に自分の「健康」について考えてみましょう。●メタボリックシンドロームとは? お腹の内臓の周りに脂肪がつく「内臓脂肪型肥満」の人が脂質代謝異常(高脂血症)、高血圧、高血糖のいずれか2つ以上を併せ持っている状態をいいます。これは主に不健康な生活習

慣から起こるものですが、早期の段階ではほとんど自覚症状が無く、静かに進行していきます。そのまま放置しておくと、動脈硬化を引き起こし、心臓病や脳卒中といった命にかかわる深刻な病気へとつながります。そうなる前に、体を動かし、食事内容を見直しましょう。●肥満を予防・解消する生活習慣 (1)内臓脂肪を減らす運動(体を動かす) (目指せ1日1万歩)

●バス・電車を利用する時は一駅・一停留所前で降りて歩く ●エレベーターやエスカレーターを使わず階段を使う ●家事でこまめに体を動かす (運動習慣を身につける) ●自分にあった運動を、無理なく楽しく続ける (2)内臓脂肪をためない食事 (食生活の改善) ●朝食をきちんと摂って、1日3回規則正しく食べる ●腹八分目を守る ●野菜をたっぷり食べる

●甘いものや油っぽいもの、塩分を控える ●自分の適正体重を維持する (3)内臓脂肪をためないそのほかの生活習慣 ●十分な睡眠をとる ●禁煙 ●ストレスを上手に解消 ●お酒は適量を守り、週に2回は休肝日(お酒の適量) ビール中ビン1本 焼酎お湯割り1合(焼酎お湯II6.4) ●問い合わせ先II健康増進課 ☎(64)0905



俊寛が船出をした港

中世の鳩脇八幡崎

◆ 錦江湾奥部の港湾

平安時代の終わり、安元三（一一七七）年六月一日、平家打倒の計画、鹿ヶ谷事件が発生しました。密告により、後白河法皇の部下、藤原師光は捕まって首を切られ、大納言藤原成親も追放の上、殺されました。法勝寺のお坊さんをしていた俊寛や平康頼・藤原成経の三人は絶海の孤島、「硫黄がしま」に流されてしまいました。翌一七八年、康頼・成経の二人は罪を許され、京都に戻ります。その時のルートが『平家物語長門本』に次のように書かれています。「さつまたがた、房の泊りといふ所より、鹿見島、逢の湊、木入津、向島をも押過ぎて、鳩脇八幡崎にぞ着き給ふ、それより取りあがりて、宮中

の馬場執印清道と申がもとにやどせられたり」。康頼と成経の二人が、坊津から知覧、喜入、鹿見島、桜島を経由し鳩脇の湊に上陸、宮内の馬場清道という人の家に寄ったことが書かれているのです。清道という人は、平清盛と交流のあった桑幡氏第五代の息長清道のことです。俊寛たちは「硫黄がしま」に流された時も同じルートをたどっており、結局、俊寛一人その島に取り残されてしまいました。

◆ 錦江湾奥部の遺跡

隼人町宮内地区にある鹿見島神宮は、古くは大隅国正八幡宮と呼ばれ、大隅国の半分近くの領土を持っていました。その神宮の仕事を代々していたのが、社家と呼ばれる桑幡・留守・沢・最勝寺の四家です。長い家では平安時代から千年も続いています。この社家の館跡が発掘調査され、たくさんの穴や溝（堀）・焼き物が見つかっています。一〇メートル四方の大きな館で、周囲に堀と土塁を巡らして防衛を厳重にし館の中では、たくさん海の焼き物を使っていたことも分かりました。中国の青磁・白磁・青花、朝鮮の高麗青磁、タイ・ベトナムの陶磁器などがありました。このような海外の焼き物などのようなルートで入って来たのかは

まだ分かっておりません。そこで、記録に残る港や地名などが手がかりとなります。

◆ 記録に登場する鳩脇八幡崎

国分平野の西端、隼人町野久美田に、現在は清水川と呼ばれる川があります。この川はかつて鳩脇川と呼ばれていたことが分かってきました。川のそばの山には「破戸脇」という小字名がまだ残っています。高速道路がトンネルに入る、岩に龍が描かれているあたりがその場所です。

江戸時代、全国を測量して歩き、日本全図を作成した伊能忠敬の伊能図にも、清水川の位置が鳩脇川として記されています。文化七（一一八〇）年には今の清水川は鳩脇川と呼ばれていたことは間違いありません。隼人町野久美田清水が記録に出てくる「鳩脇八幡崎」であると特定できたのです。

桑幡さんの家の「由緒書出帳」という記録に次のようなことが書いてあります。大永七（一一五七）年、旧国分市域で活動していた本田氏が攻めてきて、大隅国正八幡宮が焼けたため、天文二十（一一五二）年に祭神を京都から運ぶことにして、桑幡氏一族の三角氏がその使者にたち、鳩脇八幡崎に船が着いて、蒲生八幡の御輿に乗せ、鳩脇八幡崎の東にある鑰島神社に奉納し

た」というのです。その際、島津日新公（第一五代島津貴久の実父）も参拝したようです。この記録によって、十六世紀半ばには鳩脇八幡崎が港として機能していたことが明らかとなりました。富隈城にいた島津義久が、琉球渡海の朱印状を住吉丸に発行したのが慶長七（一六〇二）年のことです。富隈之湊（現浜之市港）が、発展するのはこの江戸時代からで、それ以前は鳩脇八幡崎が港として機能していたと考えられます。鳩脇八幡崎は、俊寛が船出した港であり、宮内地区で見つかったたくさん海外の焼き物もこの港から入ってきた可能性が高いと言えます。



「アメリカの伊能大図とフランスの伊能中図」発行所：（財）日本地図センター

痛風

M E D I C A L L E C T U R E

やさしい医療講座

財団法人痛風研究会 痛風協力医療機関 医療法人昭山会
佐藤医院 院長／佐藤昭人



痛風の治療のポイント

前回は痛風について一般的な解説をしました。今回は食事療法、運動療法、薬物療法について具体的に解説します。

▲ 食事療法

食事療法については三つのポイントがあります。

一つ目は総カロリーの制限が必ず必要です。多くの種類の食品をバランス良く、少しずつゆっくりに食べるようにしましょう。そして肥満の人は体重を減らし肥満を解消することが大切です。ただし、食事を長時間抜くと尿酸値は逆上がりしますので注意してください。二つ目は尿酸の元になるプリン体の多い食物を取り過ぎないようにしましょう。肉や魚、レバーなどの内臓物、魚の卵などには特に多く含まれます。肉を食べるときは水煮にすると肉の中のプリン体が溶け出しますので、しゃぶしゃぶや水炊きで食べると良いでしょう。ただし、まわりの野菜やスープにプリン体が入り込んでいますから注意が必要です。牛乳やチーズなどの乳製品や鶏卵などはプリン体が少なく、痛風には良い食品といえますが、コレステロールの高い人は取り過ぎに注意が必要です。

アルコールについては、アルコール

自体が体の中で尿酸が作られるのを促したり、尿酸が体の外へ出るのを妨げるためなるべく控える必要があります。アルコールの種類ではビールに最もプリン体が多く含まれます。ただ最近ではプリン体が入っていないビールも発売されているようです。一方、度数の高い焼酎やウイスキーのような蒸留酒は、蒸留の過程でプリン体が壊れるため、含有量はごくわずかです。ビールよりも飲まないといけない宴席では、ビールより焼酎などの蒸留酒の方が良いでしょう。

三つ目はアルカリ性の食物を積極的にとることが大切です。尿が酸性に傾いてしまうと尿酸が尿に溶けにくくなり尿酸結石を作りやすくなります。尿をアルカリ化して結石を予防することが大切です。アルカリ性の食品には、ひじき、わかめなどの海藻類や、しいたけなどのきのこ類、さつまいもなどの芋類があります。

そのほか、尿の量が一日2リットルくらいになるように、水やお茶をたくさん飲むと尿酸が多く排せつされ、尿酸値が下がります。ただし、ほかの病気があり水分制限が必要な人はかかりつけの先生にご相談ください。

▲ 運動療法

糖尿病は運動をすることで血糖値が下がりますが、痛風の場合、運動で尿

酸値が下がるということはありません。逆に過度の運動は尿酸値を上げてしまいます。プロ野球選手やお相撲さんなどに痛風が多い理由の一つでもあります。では、どんな運動が適しているのでしょうか。痛風の人は肥満や高血圧、脂質異常症などを合併していることが多いので一般的に良いとされているウォーキングや水泳などのいわゆる有酸素運動が適しています。ただし、ペースを上げ過ぎると尿酸値が上がりますので注意してください。

▲ 薬物療法

痛風の治療には痛風発作を抑える治療と尿酸を下げる原因治療があります。痛風発作を抑える治療にはいわゆる痛み止め（消炎鎮痛剤）を多めに使います。腫れがひどかったり長びくときは、ステロイドを短期間使う場合もあります。また発作が起こる前兆がある場合はコルヒチンを一錠だけ飲むことで発作を予防できます。痛みが完全に治まったから次に尿酸を下げる薬を使います。痛風には体の中で尿酸がたくさん作られてしまう尿酸産生過剰型と尿酸の外へ出る量が少ない尿酸排せつ低下型、その両方が合併している混合型があります。そのため尿酸値を下げる薬には尿酸の産生を抑える薬と尿酸の排せつを促す薬があり、それぞれの型に合った薬を使うとより効果的です。

お知らせ

市制3周年記念式典

市制施行3周年を市民みんなで祝うために開催します。
 ・日時 11月9日(日) 午前9時～午後0時30分
 ・場所 霧島市民会館

●記念式典
 ・オープニング(市歌・愛唱歌・音頭の披露)
 ・記念式典(市民表彰など)

●記念公演
 ・公演者 辛島美登里さん
 ・内容 ミニコンサート
 ●記念講演
 ・講師 三浦雄一郎さん
 ・演題 エベレストから見た地球

◎問い合わせ先 総務課 市民運動推進室 ☎(64)0915

市道小田小浜線が開通

市道小田小浜線は、県道北永野田小浜線と国道10号を結ぶ新設の幹線道路です。小浜交差点の渋滞緩和と地域の交通円滑化および地域間アクセスの向上を目的に整備をすすめており、まもなく完成し

す。
 ・開通式 10月20日(月) 午前10時から
 ※一般開放は午後1時からの予定です。

◎問い合わせ先 土木課 ☎(64)0907

いづも絵画展

市内の保育園・幼稚園の園児から小中学生までの絵画作品が展示されます。
 ・期間 10月21日(火)～30日(木)
 ・場所 国分シビックセンター1階市民ギャラリー

◎問い合わせ先 文化振興課 芸術文化グループ ☎(42)1119

霧島市芸術祭・文化祭

霧島市文化協会主催の第3回霧島市芸術祭と各支部文化祭が各地区で開催されます。

●第3回霧島市芸術祭
 ・【展示】期日 11月14日(金)～21日(金)
 ・【展示】場所 国分シビックセンター1階
 ・【舞台】期日 11月16日(日) 午後1時～4時

【舞台】場所 単人農村環境改善センター

各支部文化祭	展示部門	舞台発表
牧園支部文化祭	10月19日(日) 中津川小学校体育館	10月19日(日) 13:00～16:30 中津川小学校体育館
福山支部文化祭	10月25日(土)～26日(日) 牧之原活性化センター	10月26日(日) 13:00～16:00 牧之原活性化センター
溝辺ふるさと祭り	11月1日(土)～2日(日) 溝辺体育館	11月1日(土) 17:30～21:30 溝辺公民館みそめ館
単人支部文化祭	11月2日(日) 単人体育館	11月2日(日) 9:30～15:30 単人農村環境改善センター
国分支部文化祭	11月2日(日)～3日(月) 国分シビックセンター	11月3日(月) 10:00～16:00 霧島市民会館
霧島文化祭	11月2日(日)～3日(月) 霧島公民館	11月3日(月) 10:00～15:00 霧島公民館
横川地区文化祭	11月3日(月) 横川公民館	11月3日(月) 9:00～13:00 横川公民館

◎問い合わせ先 文化振興課 ☎(42)1119、各出張所 教育振興課

浄化槽法定検査のお願い

浄化槽を設置されているかたは、浄化槽法により検査を受けることが義務付けられています。
 この検査には合併処理浄化槽を設置し、約6か月後に

槽を設置し、約6か月後に行われる使用開始検査(手数料1万1000円)と、定期検査(手数料6000円)があります。定期検査は、1回目

が使用開始検査の約1年後に行われ、その後は約5年ごとになります。また、単独処理浄化槽は定期検査(手数料4000円)が約5年ごとに行われます。

検査は県環境検査センターの職員が事前にはがきで通知した日にお伺いします。保守点検業者とは異なりますので、ご注意ください。検査手数料は個人負担となります。

◎問い合わせ先 財団法人鹿児島県環境検査センター ☎099(223)3185、環境衛生課環境保全グループ ☎(64)0950

緑の募金活動報告

2月1日から4月30日まで実施しました緑の募金は、多くのかたのご理解とご協力をいただき、市全体で371万3338円が集まりました。この厚くお礼申し上げます。この募金は、県内外の緑化推進活

就職面接会&就職支援セミナー

●就職面接会
 ・日時 10月30日(木) 午後1時30分～5時
 ・場所 市ホテル京セラ

●就職支援セミナー
 ・対象者 55歳以上のかたで就職希望者(在職者可)もしくは45歳以上のかたで事業主都合による退職者
 ・持参するもの 履歴書、職務経歴書、ハローワークカード(所有者)
 ・就職支援セミナー

●講師 岩元一哲氏(岩元社会保険労務士事務所所長)
 ※参加申込書はハローワーク国分に準備しています。
 ◎問い合わせ先 助産員会 ☎(219)2000

森林のまつり

始良地区の林業・木材関係者の主催で開催されます。
 ・日時 10月19日(日) 午前10時～午後4時(参加無料)
 ・場所 溝辺町物産館「よこでーろ」前駐車場
 ・内容 木工教室、丸太切り競争、チェンソーアート、特産品販売、餅まきなど
 ◎問い合わせ先 県始良・伊佐地域振興局林務水産課 ☎(63)8162

募集

第6回きりしま歴史散歩

今回は山ヶ野金山史跡を歩きます。(参加無料)
 ・日時 11月1日(土) 午前9時～12時 ※小雨決行
 ・集合場所 山ヶ野小学校跡地(横川町上ノ)

●対象 小学生以上
 ●定員 先着50人
 ●申込方法 横川出張所教育振興課へ直接おいでいただくか、電話にて申し込みください。
 ●申込期間 10月14日(火)～24日(金) ※土日は除く
 ※定員になり次第締め切り
 ◎問い合わせ先 横川出張所 教育振興課 ☎(72)1596

ファミリー・サポート・センター「提供会員」募集

ファミリー・サポート・センターは、育児の援助をしてほしいかた(依頼会員)と、子どもの預かりや送迎などの援助をしたいかた(提供会員)の援助活動を有償のボランティアで行う会員組織です。今回は「提供会員」を募集します。興味のあるかた、会員に登録し活動してみませんか。応募要件 市内に居住する20歳以上の心身ともに健康なかたで、自宅で子どもを預かることができるかた。その活動に対して基準額による報酬があります。※ただし、同センターが実施

成人式実行委員募集

平成21年の成人式は各地区で実施予定です。成人式の開催運営に取り組む新成人の実行委員を各地区で募集します。

地区	開催日	会場	担当課
国分	1/5(月)	霧島市民会館	生涯学習課 ☎(42)1118
溝辺	1/3(土)	溝辺公民館(みそめ館)ホール	溝辺出張所教育振興課 ☎(58)3391
横川	1/3(土)	大隅横川駅	横川出張所教育振興課 ☎(72)1596
牧園	1/3(土)	牧園総合支所1階ホール	牧園出張所教育振興課 ☎(76)2714
霧島	1/5(月)	霧島公民館	霧島出張所教育振興課 ☎(57)1111
単人	1/5(月)	単人農村環境改善センター	生涯学習課 ☎(42)1118
福山	1/5(月)	福山活性化センター	福山出張所教育振興課 ☎(56)2026

●要件 昭和63年4月2日かから平成元年4月1日までの出生者で、霧島市に住民登録をしているかた、または

インターナショナル・フード・ふれあい

アメリカ・中国の簡単な家庭料理を作り食べながら、国際交流員と交流しましょう。
 ・日時 11月15日(土) 午前10時～午後1時
 ・場所 国分シビックセンター1階公民館調理室

●定員 24人
 ※定員になり次第締め切り
 ●参加費 400円程度
 ●申込期限 10月31日(金)

◎申込・問い合わせ先 企画政策課国際交流グループ ☎(64)0914

「わが家の宝物展」展示資料を大募集

皆さんの家に先祖から受け継がれた歴史的な品はありませんか。例えば、先祖が作り今に伝わっているもの、昔の教育関係資料、歴史上の人物の手紙・書幅・遺品、古文書、古美術品・考古資料、郷土の

上床運動公園ソフトバレーボール大会

●日時 11月8日(土) 午前8時受付、9時試合開始
 ●場所 溝辺体育館
 ●種目 混成の部・女性の部 ※6人1チーム。混成の部は男性2人が入ること
 ●対象者 市内居住者または市内勤務者(学生を除く)
 ●参加費 1チーム3000円(参加賞あり)

●募集チーム数 混成の部16チーム、女性の部8チーム(先着順)
 ●申込期限 10月10日(金) 31日(金)
 ◎申込・問い合わせ先 溝辺上床運動公園 ☎(58)2451



市からののお知らせや募集などの情報をお届けします。詳細な情報は掲載されている問い合わせ先に、ご連絡ください。

8 9 9 4 3 9 4

お手数ですが
50円切手をお貼りください

◎ご氏名
フリガナ _____

年齢 / _____ 歳 性別 / _____ 男・女

◎ペンネームまたはイニシャル _____

※記入がない場合、実名で記載させていただきます。

◎ご住所 □□□□□□□□ _____

電話 (_____) _____ - _____

おたより 待ってます

この広報誌を読んだ感想や今後取り上げてほしい記事、霧島市への思い、あなたの身近な事、何でも好きなことを書いてください。

お便りをくださったかたの中から「宝くじまちの音楽会」南こうせつwithウー・ファン〜心のうたコンサート〜のペアチケットを5人のかたにプレゼント。応募締め切りは10月20日(月)当日消印有効です。当選の発表は、商品の発送を持ってかえさせていただきます。

霧島市役所 広報広聴課 行

(No.64/2008.10)

↑点線に沿って切り取ってください。(官製はがきでも可)



ツルボ(ユリ科)

Readers Voice

読者の声

このコーナーは読者の皆さんからの声を伝えるページです。本誌への感想、霧島市への思いなど、たくさんのお寄せください。



Community

横 浜の娘宅から9か月ぶりに霧島に帰ってきたとき、とても緑に飢えている自分を感じました。早速霧島歴史ウォーク、霧島の七不思議めぐりに参加、9月号の表紙になっている御手洗滝など、実際に見る事ができ、心身のリフレッシュができました。森林セラピー事業など整備されているとのこと、これからはとても楽しみです。(こい62歳女性)

自然の中でのリフレッシュ。自分たちの住むまちが素晴らしい環境であることをあらためて感じます。

霧 島市が大好きで、山の神の住みたまうこの地を汚すまいと毎日ごみ拾いをしながら歩いています。スーパーのレジ袋はもらわず、拾ったものを洗って使っています。残飯もなるべく控え、果物の皮は日干しにし、パンくずは小鳥や鳩に、牛乳、コーヒー、酒などの空き箱には残飯を入れ、水漏れのないようにしたり、使用済みの封筒も裏返しにして使って、年間1万円も節約していることに気づきました。手紙も裏紙を使えんじたり、ペンも鉛筆にしたらプラスチックを出さずに安心

です。(スカレット74歳女性)

節約が環境の保全にもつながります。日ごろからのこころがけが大切ですね。

か わら版に掲載された「売り込め霧島のブドウとナシ」の紹介。ナシのジャムも良いと思います。おいしいですよ。ぜひ作って売り込んでみてください。(恋の霧島ホオジロ54歳男性)

今年のナシは台風の影響もなく、豊作で味も良いそうです。ジャムなどの加工品も日持ちがしてよさそうですね。

ガーゼのことはすぐにできても、1日12回抱きしめるのはなかなかですが、これからおばあさんの愛情子育て方法を学習して育児をしていきたいと思えます。(1歳いちごのママ30歳女性)

おばあちゃんは子育ての先生でもあります。体験談から多くのことを学びます。

家 事や育児は女性の仕事「家事」と考える男性が理解できません。共働きの家庭も増えている中、女性にばかり負担を押し付けるのはいかがなものかと思えます。男性も仕事に励み、疲れているのはわかります。ですが、女性には妻として母として、毎日朝から夜遅くまで働いていきます。休日なんてありません。1日のうちわずかでも子どもとの相手をしてくれるだけで、少しの時間を家庭にあててくれるだけで女性はとても助かるのです。家族の一員として、男性にもぜひ家事や育児に参加してもらいたいです。(さつまいもR22歳女性)

親は子の鏡、子は親の鏡と

国 分中央高校のダンス部すこいですが、本当におめでとうございます。神戸市長賞受賞はすこいことです。霧島市民として、35年間の神戸市民として、また私の母校として本当に喜ばしいことです。これからもがんばってください。(霧島市大好き、神戸市大好きおばさん64歳女性)

きらきらと輝く目、見ていられる人たちがさわやかにしてくれます。母校の活躍は本当にうれしいものです。

女 性ががん検診に近所の人と出かけました。皆さん自分の健康は自分で守るという自覚を持ったかたが大勢集まっていました。すべての病気に共通することですが、特にがんの場合、早期発見の大切さを自分の身を持って思い知らされました。私も市の検診で発見されたのです。自覚症状でもない限り、なかなか病院に足が向かないもので、特に女性の場合は…。私は定期検診の大切さ、ありがたさ

を実感し、友人にもすすめています。(日当山老女T・Y 69歳女性)

健康でいることは自分のためだけではなく家族のためでもあります。大病を思い、つらい日々をおくることのないように定期的に健康診査を受けましょう。

保 健センターの子宮がん検診を受けに行った時の出来事です。1歳の娘と一緒に並んでいると、後にいらしたおばあさんが、「子育てが一番大事なことは何かわかる？」と聞かれました。とまどいながら「抱きしめてあげることですか？」と答え、「そう、でも父母両方で1日12回は抱きしめてあげることが大事だよ、3歳までは続けなさいね」とアドバイスしてくださいました。ほかに娘のあせもに気づかれ、「ガーゼをぬらして絞ったものをビニール袋に入れて持ち歩くといいよ」と教わりました。家に帰ってから、その貴重な言葉を思い出して実行中です。

忙しいけどもちょっと手伝ってくれるだけで助かります。「何か手伝おうか」と言ってくれるだけでも。

9 月号に市民プールの利用者のご意見がありました。夏休みの子どものさん利用へのしつけの問題、私も賛同します。自分の脱いだ服も片付けられない子どもたちが、ベンチの上に脱ぎっぱなしでプールに走って行き、ロッカールームは惨たんたる状況。ご婦人の中には化粧を落とさずに入られるかたを見受けられます。また、シャワーの後にぬれたままカーペットが敷いてある更衣室に入る人も多々。タオルでさっと拭くだけでカーペットもぬれずに済むのに。家でもぬれたまま部屋に入るのかしら?と思ってしまうんです。子どものしつけの前に私たち大人もマナーを守り、大切な施設を孫子の代まで大事にしましょう。(悲愴感マーメイド45歳女性)

休みに「考古学キッズインサマー」でいせぎのことを勉強し、くしら町でいせぎ発掘調査をしました。5千5百年前の池田湖がふん出した時の石や、おうど色で赤てんでんのあるいせぎを見つけた時とてもうれしかったです。きりしま市には516か所のいせぎがあるそうです。今、わたしはスタンプラリーでじん社やきょう土館などをまわっています。これからきりしま市のれきしをもっと知りたいです。(もね8歳女子)

縄文の森など霧島市は歴史の宝庫です。友だちといっしょに探したり、勉強するとても楽しくなりそうです。

このほかに10通のお便りがありました。
※ハガキには住所・氏名・年齢・ペンネームなどを必ずお書きください。



携帯電話からも、霧島市の情報をご覧ください。パソコンをお持ちでないかたも、インターネット接続可能な携帯電話を利用して、霧島市ホームページの情報の一部を検索できます。

◎人口 / 128,055人(-12)
男性 / 61,763人(+11)
女性 / 66,292人(-23)
出生107人 / 死亡 90人
転入471人 / 転出474人
◎世帯数 / 56,967世帯(-15)
(平成20年9月1日現在)

↑点線に沿って切り取ってください。(官製はがきでも可)

10 PRESENTS

お便りをくださったかたの中から
「宝くじまちの音楽会」
南こうせつ with ウー・ファン～心のうたコンサート～の
ペアチケットをプレゼントします

南こうせつの「神田川」や「妹」など思い出の曲を中心としたコーナーや、古箏奏者ウー・ファン、地元合唱団との共演など、オリジナリティあふれるコンサート。

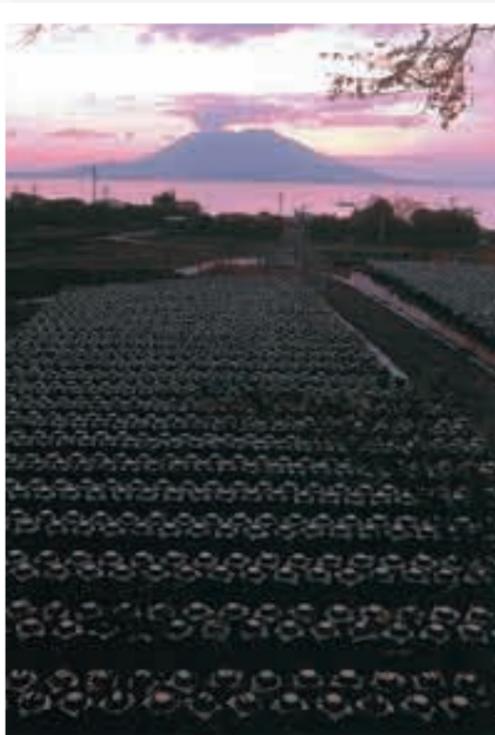
◎日時=12月4日(木) 午後6時30分開演 ◎場所=霧島市民会館
◎料金=全席指定2,000円(当日券2,500円) ※宝くじ助成による特別料金

◎問い合わせ先=文化振興課芸術文化グループ ☎(42)1119



※読者プレゼントを提供して下さるかたを募集しています。広報広聴課広報グループ ☎(64) 0955 までご連絡ください。

福山地区の黒酢畑 (第4回さきしま写真展入選作品)



福山の黒酢の壺の独り言

◎大島 三良

日本地図を広げて探すとこへ越し

平成7年、阪神・淡路大震災で神戸の妻の実家が倒壊、妻の義兄は福山町出身で、ちょうど福山町の夕日ヶ丘団地が分譲中でしたので購入して帰郷しました。

妻の母も一緒で、「お母さんも寂しいだろう」と妻が言うので最後の親孝行をさせるため、小生も思い切って大阪から団地に転居、早12年が経

ちました。転居して西方浄土近くなり、国鉄は廃線で今は路線バスが頼りです。通院・通学が主体のきびしいダイヤですが、桜島を窓越しに眺めながらのバス便もまんざら悪くはありません。

桜島の灰を「へ」。うるさいハエも「へ」、屁はびったし、三つの発音が同じで、ヘーンウデッカーと、じゃっどでした。ヨカニセをよくできた偽者のことかと思っていたところ、「オマンサアも50年前は

ニセモノじゃったやろ」と冷やかされ散々でした。方言は、さつま狂句がその極地であり解説を読んで、やっと納得、勉強のため、新聞、テレビ欄への入選を目標にしています。

天孫の気分ちよつぱり霧の中

先だって、大阪から来訪の友人が、霧島のホテルで一泊、早朝、濃霧の中を下山して、高天原でないのに天孫降臨の

気分になれたと喜んでいました。福山町も名木夫婦銀杏を境内に擁する宮浦宮前の錦江湾に面した国道220号の海岸に「神武天皇お船出の地」の立札もあり、由緒深いところ。

中学2年生の夏に終戦となりました。空き地があれば運動場でも耕して、サツマイモを植えて、飢えをしのいでいたことを懐かしく思い出します。サツマイモは芋ケンピ(サツマイモを原料とした一種のかりんとう)ともども大好物、10年前までの下戸が今では芋焼酎を休肝日なしで嗜んでいます。いまだストレートは無理ですが適当に酢で割ることも教えられました。先日、韓国の国営テレビ局のスタッフが、酢の効用について取材にみえていました。酢も国際的になり、これからも一層の隆盛を念ずる次第。

福山の健康を守る酢の香り

本年度、老人クラブ若尊会の会長を命じられました。老

彼 岸花の花言葉は「想うはあなた一人」「また会う日を楽しみに」。あぜ道で、ずっと真上に咲く姿は華の意地を感じる。赤い夕日に赤とんぼ、秋風にゆれる黄色い稲穂。締め切り間近の私は「あれから春がまた秋が〜帰りたくても帰れない」と千昌夫の「夕やけ雲」を口ずさむ(ふ)

混 声合唱団グリーンエコーの練習を見学しました。団員は20代から80代とさまざま。ストレッチや発声練習を入念にして一音一音真剣に取り組む姿を見ているだけで「歌うのが好き」という気持ちがよく伝わってきました。そんな皆さんは楽しそうでいい表情でした(あ)

今 回の特集で取材をしたかたは、皆さん食に対していろいろな思いを持っていました。私は食に対して「うまい・まずい」という単純な感情だけ。民族研究科の結城先生が言った「最近の日本は食に対して感受性が単純」という言葉が「グサッ」と響きました。反省です(み)

今 井雅之さんの舞台「ウインズ・オブ・ゴッド」を観に行きました。特攻隊員を描いた舞台で観客は涙を流し総立ち。生の舞台は最高。いつもは途中で眠っている妻も立ち上がり拍手を送っています。さぞ感動したのだろう。「どうだった」と聞くと、妻「お・起きてたよ」(た)



◎今月の表紙

9月17日 午後2時23分
溝辺町竹子(たかせ)宮原

【撮影データ】
デジタルカメラ レンズ17~85mm F4~5.6
1/90s F8.0 ISO100

朝夕、秋色、秋風をちよつぱり感じ始めた9月中旬。田んぼのあぜ道でひっそり芽を出した彼岸花。日が経つに連れ、頭を垂れる稲穂の隣であたり一帯を一斉に彩る彼岸花の光景に市内のあちこちで遭遇。中でもこの場所は特に惹かれ、お気に入りのひとつになってしまいました。ここは、県道55号、久留味川バス停を左折した田んぼ。

人クラブとその会員数の減少は全国的な傾向となっていてます。我が若尊会においても例外でなく会員は減っています。会の目的である会員の老後を健康で豊かなものにして、福祉増進に努めるため、全国三大運動の目標である「健康づくり」「友愛活動」「社会奉仕」を充実させていきたいと存じております。魅力ある若尊会のため有志のご参加を切にお待ちします。

幸せな七を重ねて長寿となり



Profile

おおしま さぶろう(77)
大阪府生まれ、公務員として定年まで勤務する。趣味は将棋、囲碁、川柳、映画鑑賞(5000本以上)プラモデル作り(第2次大戦の飛行機100機、帆船10隻)。焼酎に酔えば戦前のなつメロ50曲ほど(マイクハナサース)

市長コラム 前田終止

もっと聞きたい

読者の声を募るようになったのは平成18年7月号からです。自治体の広報誌としては全国でも数少ない取り組みです。私は皆さんの思いを感じ取れるように、はがきそのものをすべて拝見しています。お便りは女性のかたが多く、子育て、環境、安心安全な暮らしに関することなど、それぞれ市が最も重要な課題として取り組んでいる事柄です。男女共同参画社会の実現をすすめています。各種委員は男性のかたが多いのが現実です。その中で、読者の声は女性の皆さんの率直な意見をいただける誌上の会合であり、キャッチボールの場でもあります。「母はやさしく、そして強かった」は私の勝手な想いですが、女性の声を政策に生かす、女性に参画いたたく機会を設けることは、真に安心して生活できる環境をつくる上で大切なことです。各種会合に参加できないかたは読者の声で、時間が許すのであれば積極的に会合へ参加いただきたい。どんな小さなことでも目こぼししていることをお聞かせいただきたいと思います。